



一気に決めるぞ！

応！

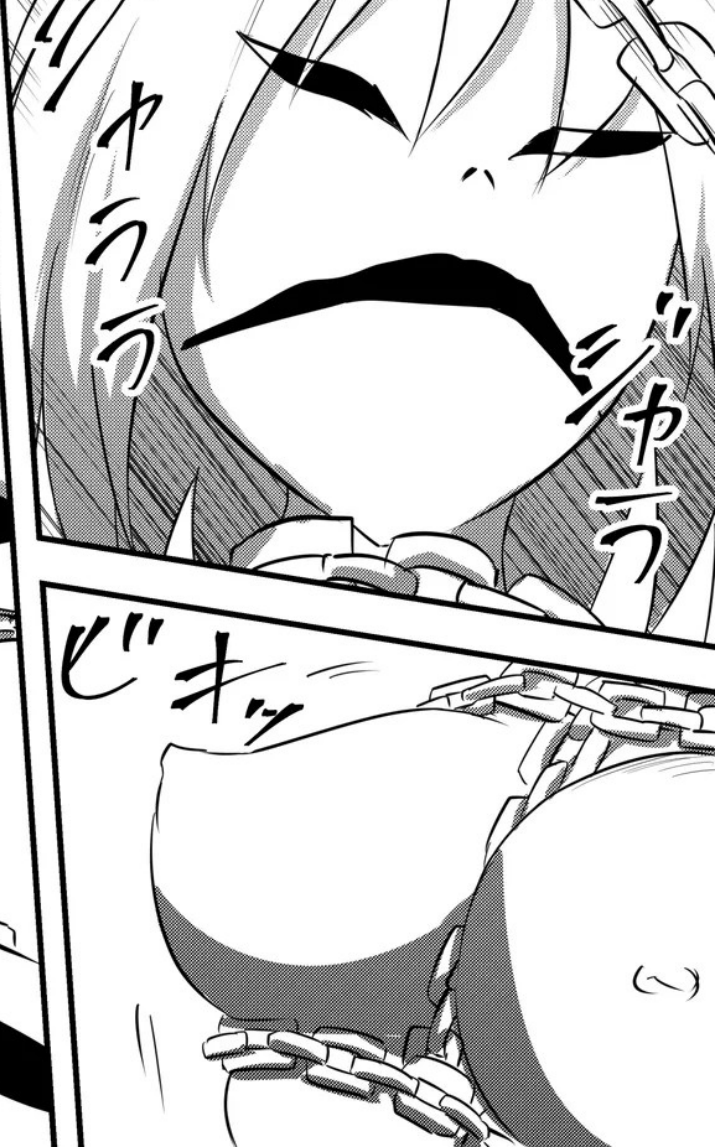
ギギギッ！



捕縛術
岩戸注連縄

グギヤ！

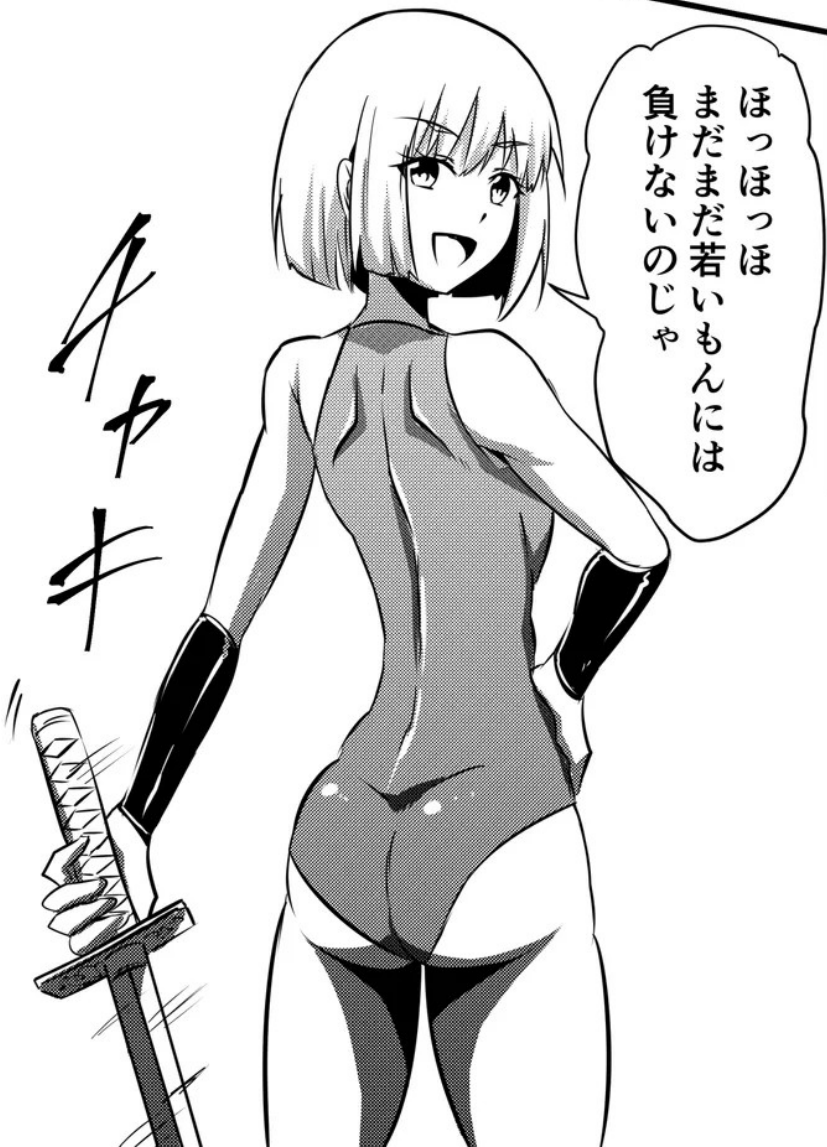
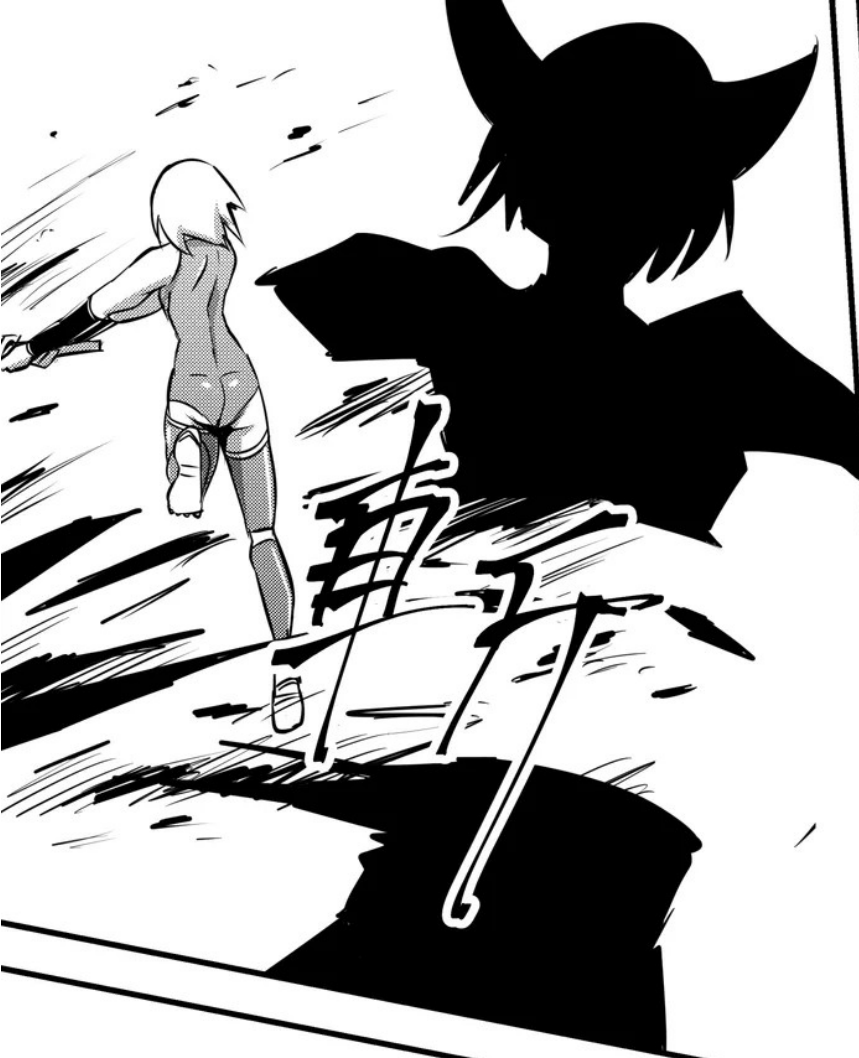
縛ったよ！
いまだ！



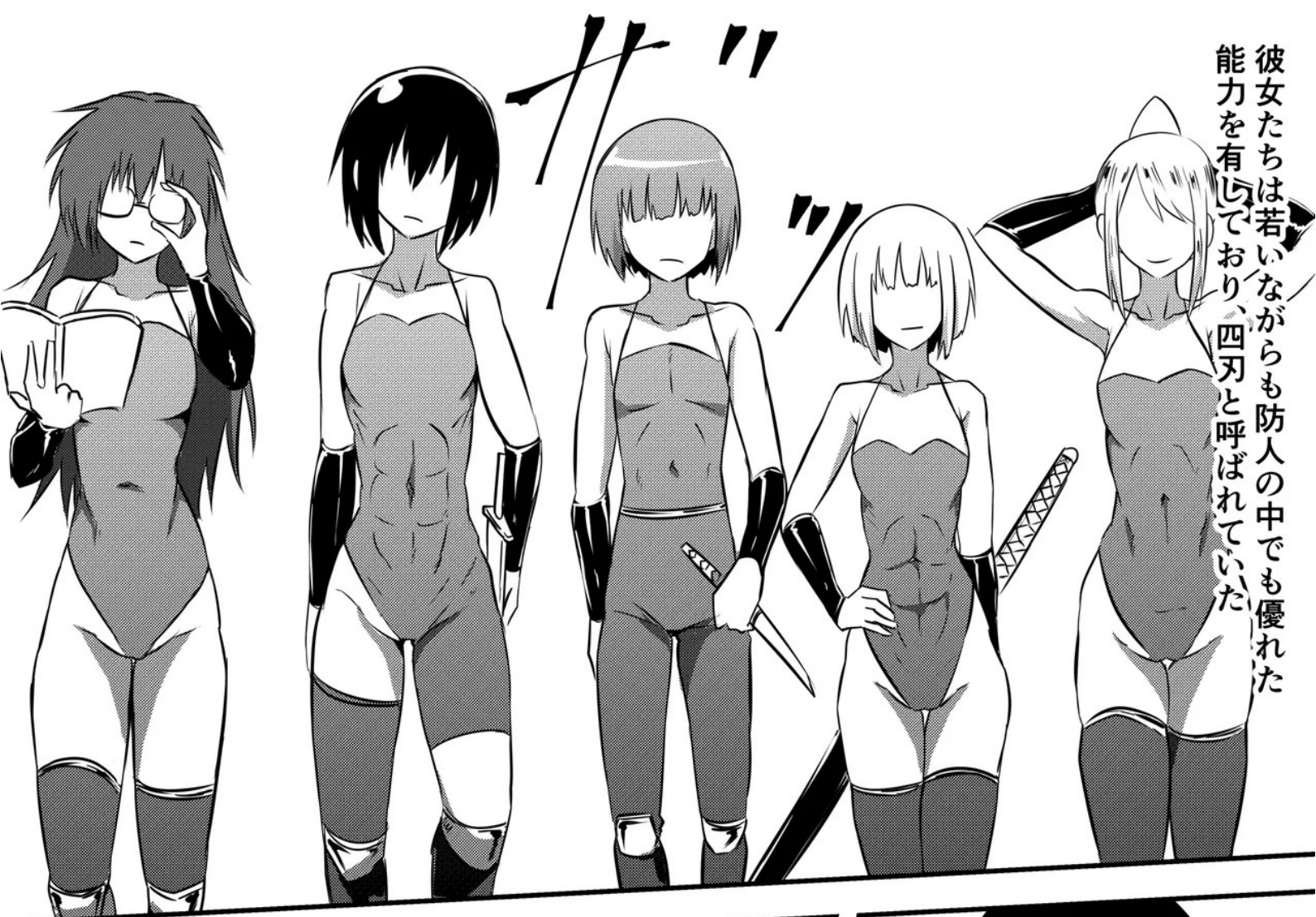
シッ
ヤウウ

シッ
ヤウウ

ビッ
ホッ



彼女たちは若いながらも防人の中でも優れた能力を有しており、四刃と呼ばれていた



クールな元傭兵の颯
学校では男に間違われてる



研究員気質の焔
分析力に優れ力や技よりも
知識で戦う

そして特殊な術を用いて千年生きていると
言われているリーダーの靈
僕の先祖とも知り合いだったらしい



学生巫女の礫
年相応に若者らしく
明るいムードメーカー



僕も一応彼女たちの
グループの一員なんだけど

伝説の防人「アギト」の子孫というだけで
特に優れた能力もなく
引け目を感じていた……

遅い！
この程度の攻撃も伏せげんで
どうする！

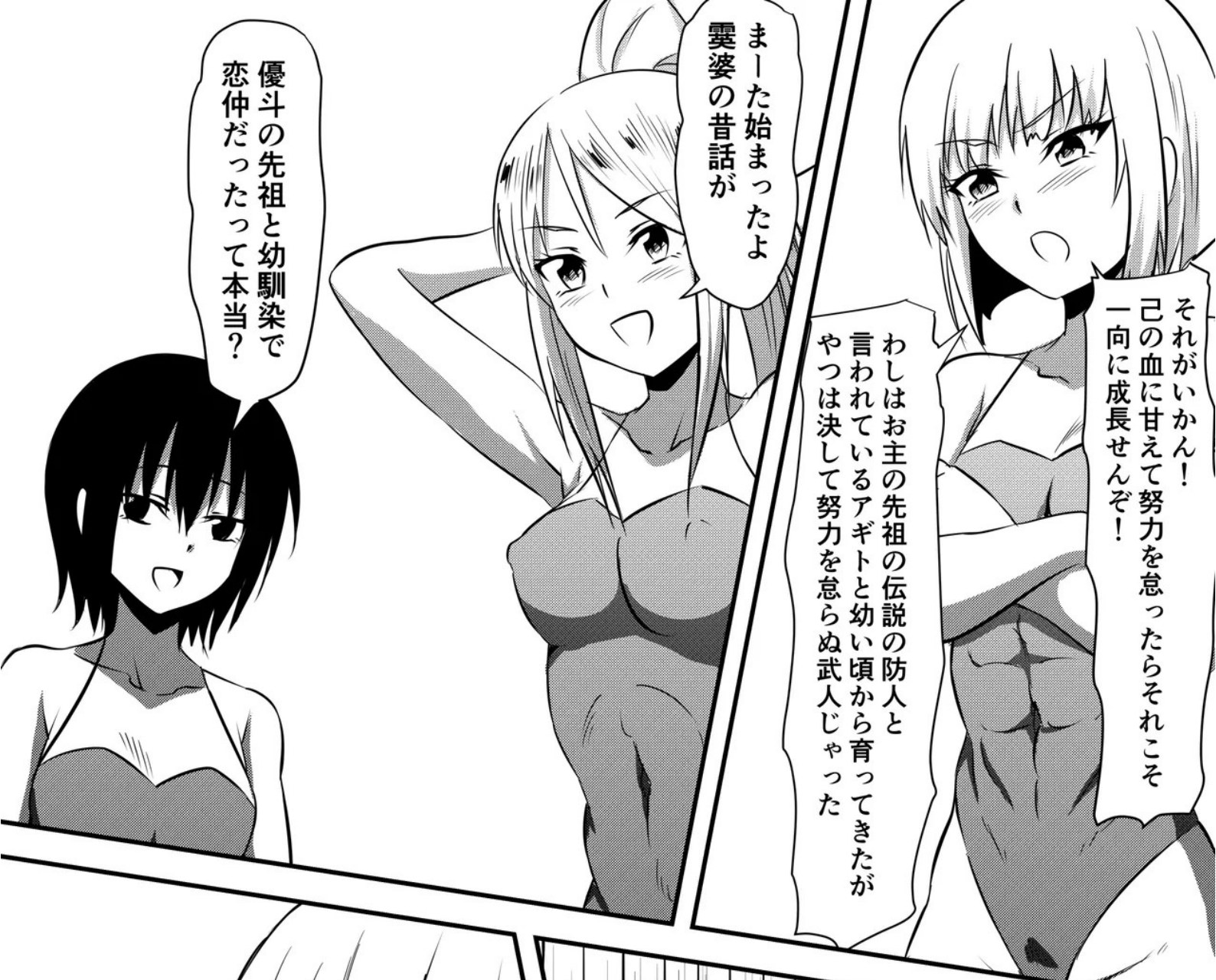
お主はまだ優しがあるのじゃ！

まあまあ
優斗はまだ発展途上だよ

なにせ伝説の防人の
子孫なんだしね

切磋琢磨

ひらき
ひらき



それがいかん！
己の血に甘えて努力を怠ったらそれこそ
一向に成長せんぞ！

まーた始まったよ
雲婆の昔話が

わしはお主の先祖の伝説の防人と
言われているアギトと幼い頃から育ってきたが
やつは決して努力を怠らぬ武人じゃった

優斗の先祖と幼馴染で
恋仲だったって本当？



ば、ばかもの！
そんな話はしておらん！

まったく……
いつまでも子供っぽいやつらじゃ

ホー

ホー

カッ

カッ

最近になって怪物は増加していた
強い防人達が次々に怪物に
改造されているという噂もある...



「僕ももっと
強くならなきゃ...

力が欲しいか...



!

だ、誰だ!



私はずっとお前を見て来た...
お前が成長するのを待っていた...

今こそ我らに伝わる秘術で
お前を最強の防人にしてやろう!

ズ
ズ
ズ

うおおおお





うん…
一昨日から学校にも来ないし
家にも帰ってないみたい



優斗が消えた？



いや、彼は伝説の防人の
血を引くもの…
それに目をつけられたということ
もありえる…



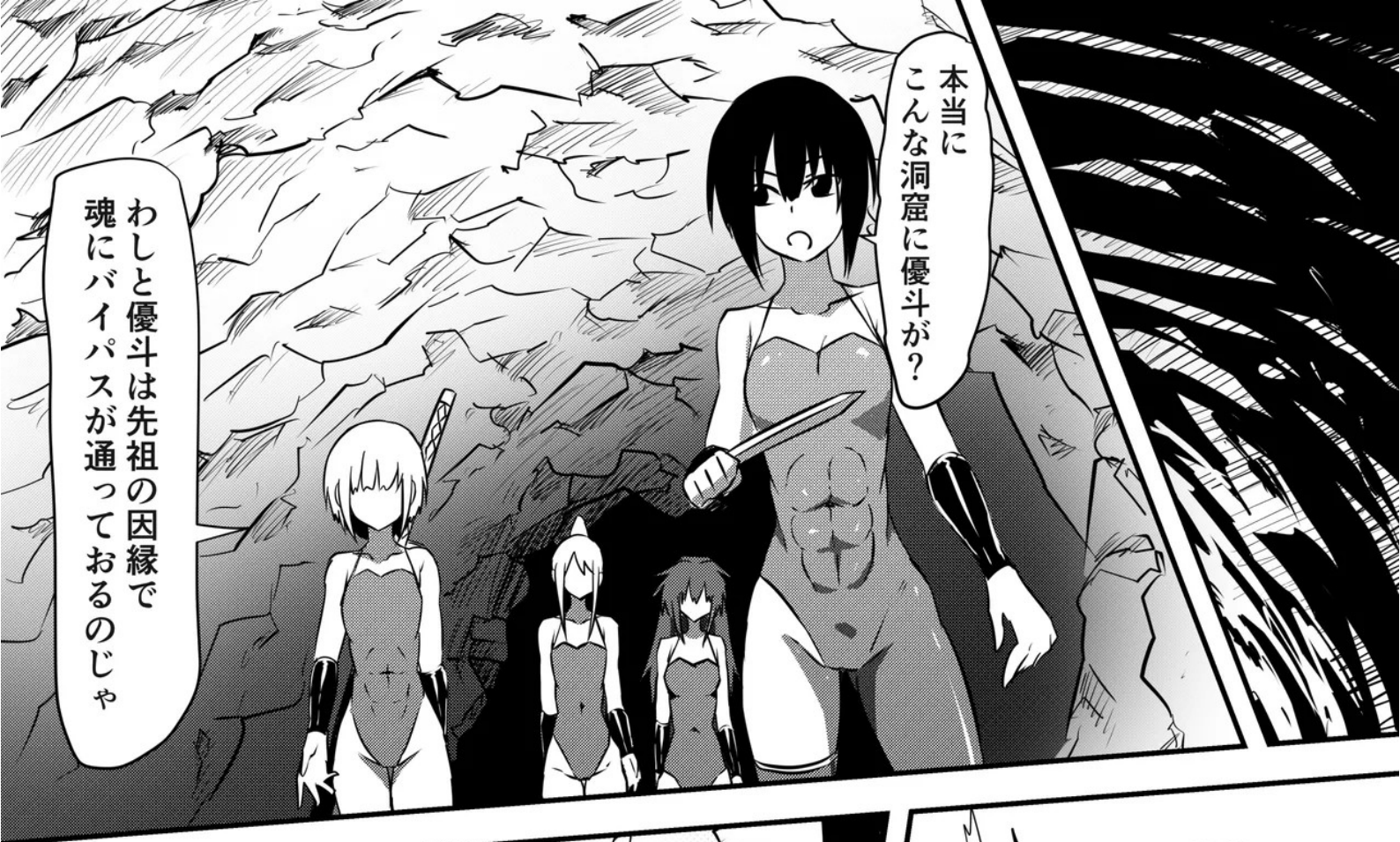
まさか例の噂！
怪物にされて…！！

まっさかー
あの半人前の優斗だぜ



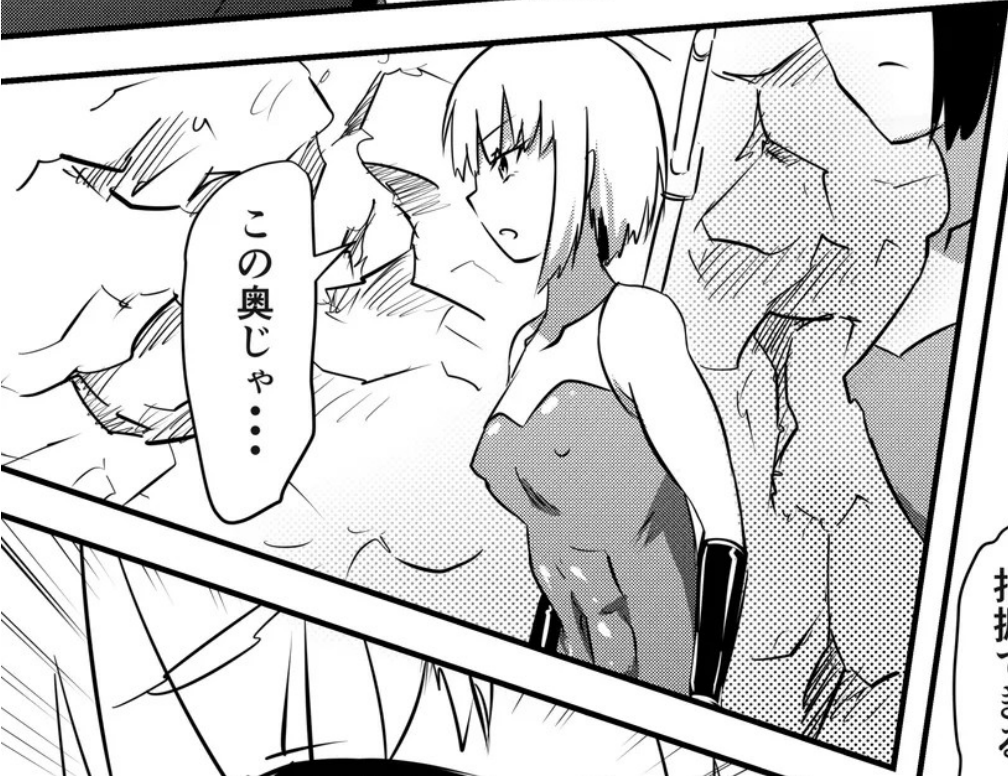
カチ
カチ
カチ

…調べましょう！



本当にこんな洞窟に優斗が？

わしと優斗は先祖の因縁で魂にバイパスが通っておるのじゃ



この奥じゃ...



あやつがいる大まかな位置なら把握できる



なっ！



う、うそ！
何この怪物！

オオオオオオ

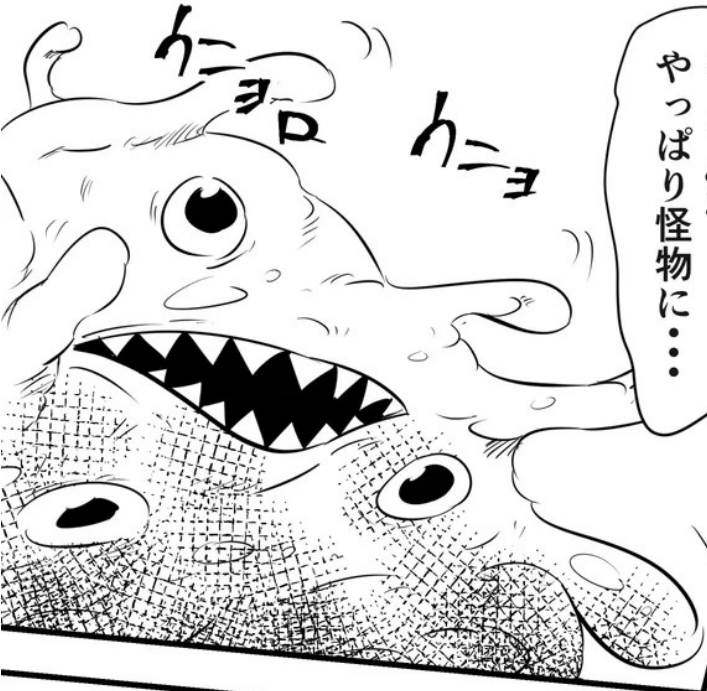


くっ！
始末する！

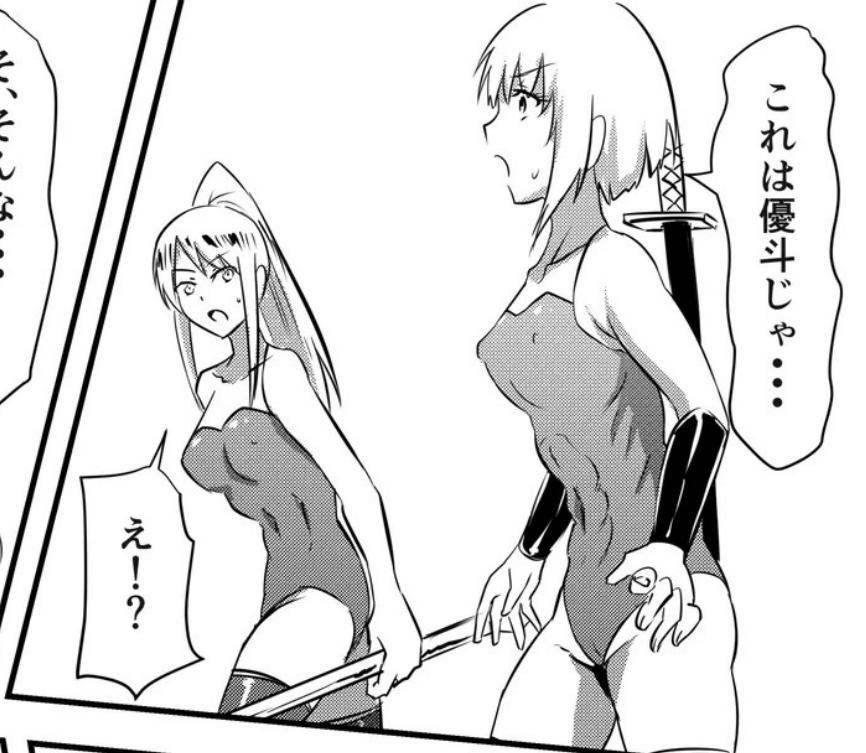
ま、待て！

わんわん

オオオ



そ、そんな...
やっぱり怪物に...

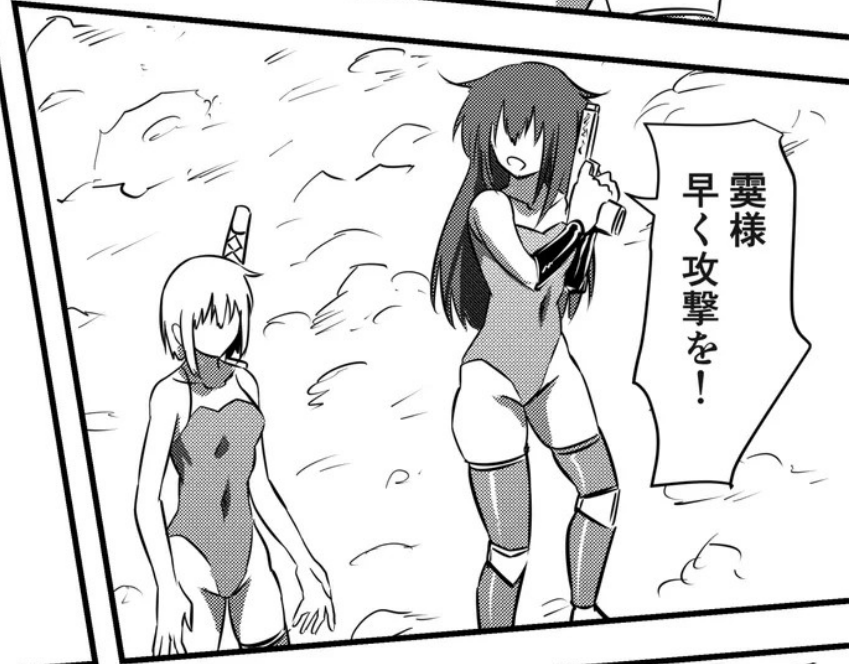


これは優斗じゃ...

え!?



ま、待て...!
救う方法が何か...!



雲様
早く攻撃を!



しまった!

くっ!

きゃあああ!



危ない!



はっ!

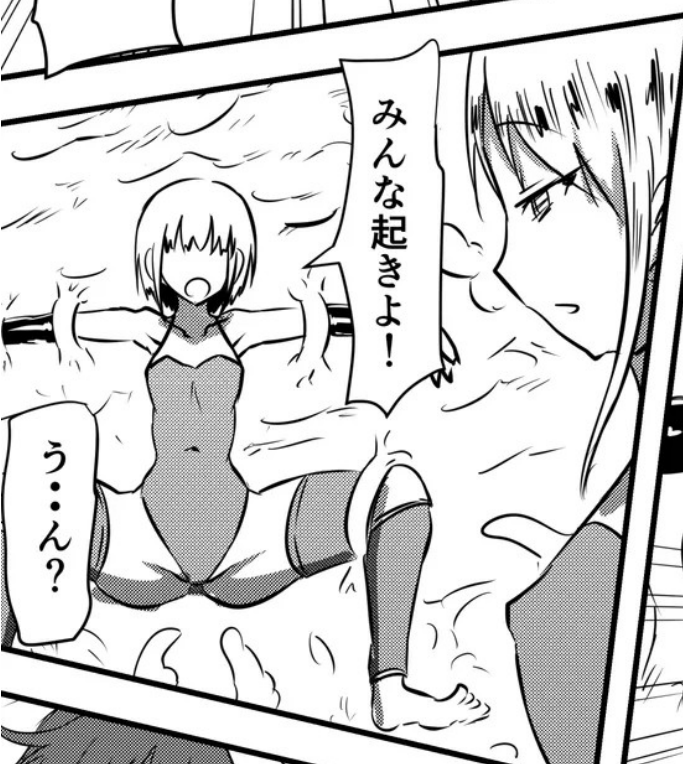


んんっ...

んんっ

んんっ

んんっ



みんな起きよ!

う...ん?



くっ!
動けない...!



なっ!

ここは!







ひぎひぎー！
あひい！

入ってくるう！

いいやっ！
放してえ！

ビッ

ビッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

ひぎひぎ

あひい



あああ...!
いやあ!

ぐむう!

ふぎゅっ

あぐお!

おごお!



むぐう!

な、何か...

ふぐう!



むむう!

止める方法は
ないのか...



そ、そんな...
みんなが...

ど、どうすれば...



わしら4人の妖力を最大に解放し
爆発させることができれば

この空間を破壊することができるじゃろう

一つだけ
抜け出す方法がある

!



震……



じゃが……そうしたら
怪物化している優斗の身体も……

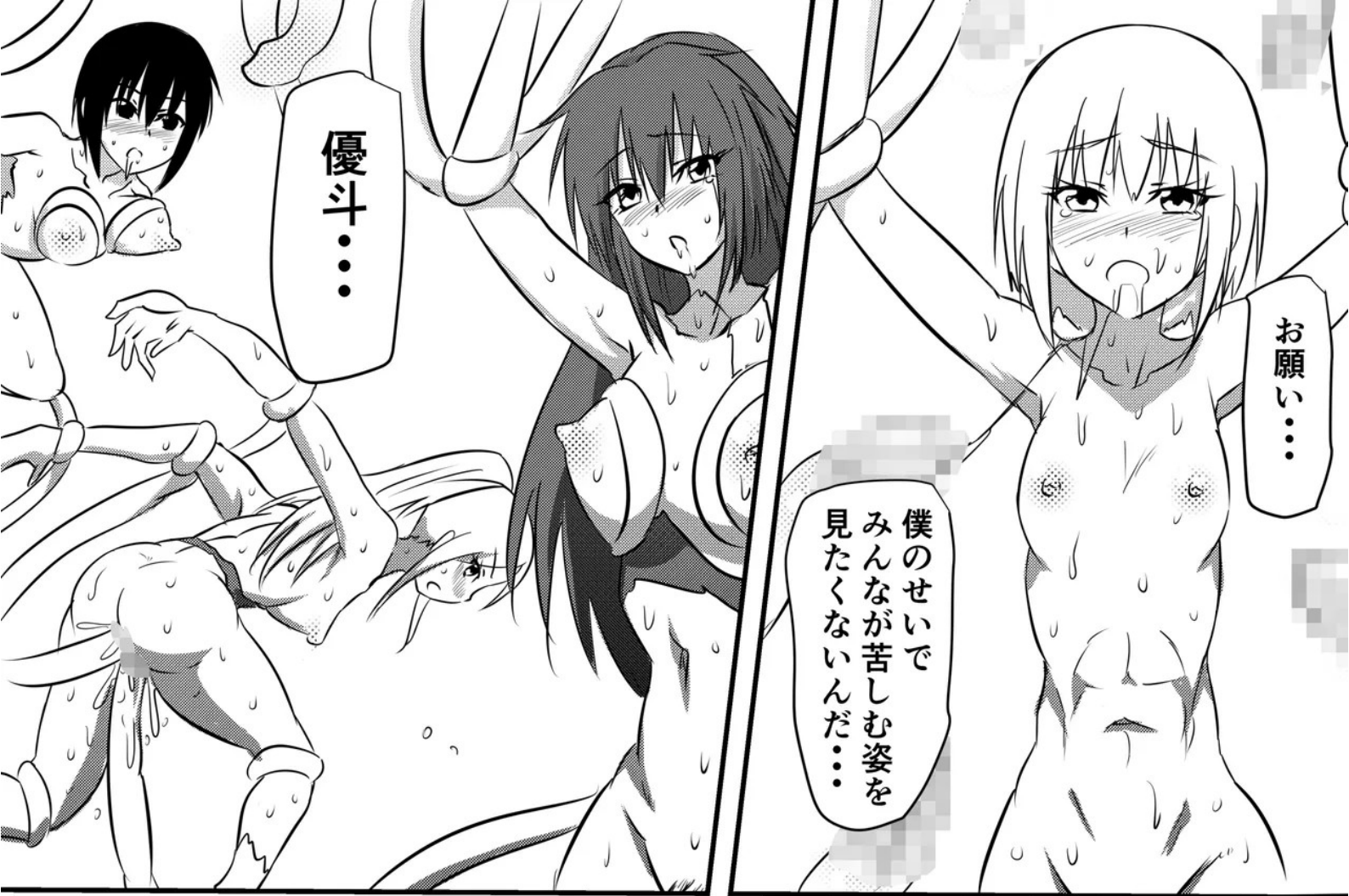
はぁん!!



僕はどうなっても
構わない!

みんなが助かるなら!
やろうよ!

あ、
シツ



優斗……

お願い……

僕のせいで
みんなが苦しむ姿を
見たくないんだ……



はあああああ！

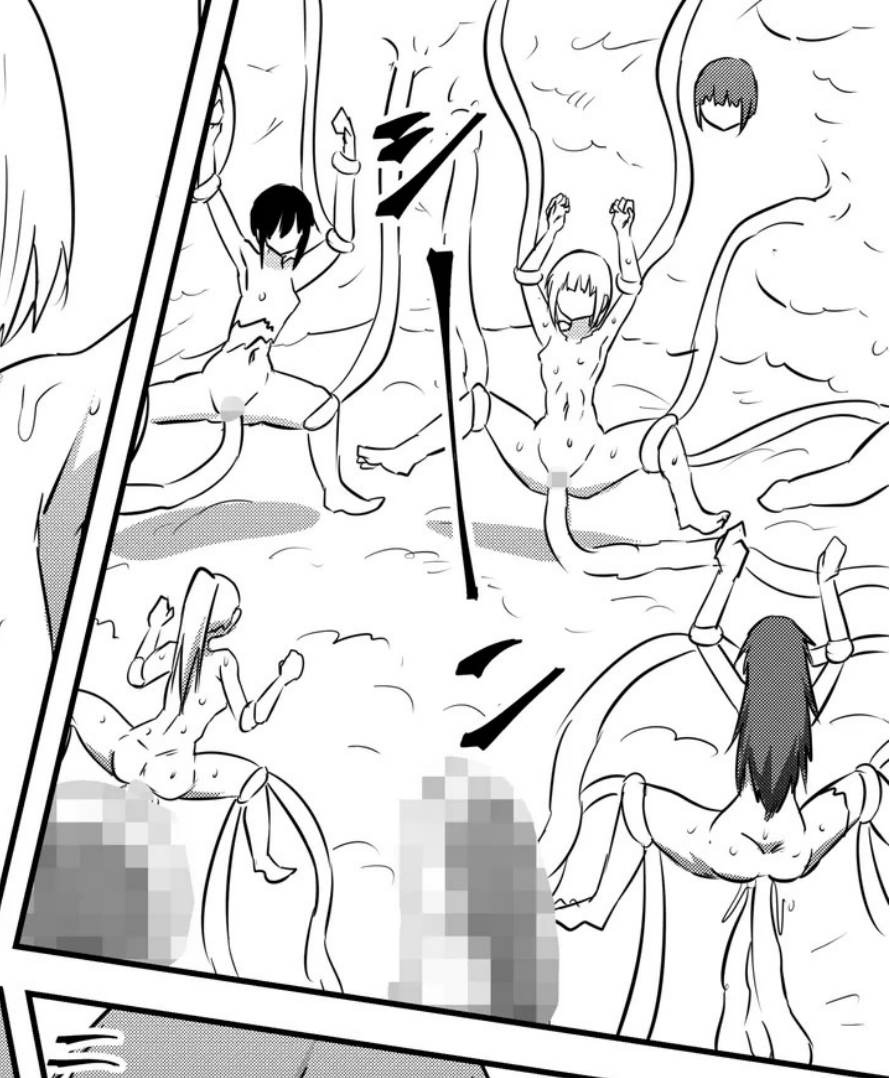


よし！
やるぞ！

体内的気を増幅させろ
共鳴するんじや！



な、なぜ！
なぜ術式が発動せん！？



アギト！

くくく
久しぶりだな雲



教えてやろう



お、お主は

お前たちには
オレの養分になってもらう

既にその妖力は吸収させてもらった
よって術式は発動できなかったのだ

語るに及ばず!

何故じゃアギト!
お前がなぜこんなことを…!

お前も防人ならば
推して知るべし



ひああ!

や、やめ…!

相変わらず甘い女だ
外側から一気に破壊していれば
よかったものの

その情がいつか命取りになると
千年前から忠告していたはずだぞ

△お前!!

これはお前の甘さが
招いた敗北だ

ズツ

ズツ

ズツ

ズツ

ズツ

ズツ

ズツ

ズツ

ズツ

この触手たちは生命維持に必要な
栄養を流しつつ
快楽を数十倍に増加する

あーあー

あーあー

ググ

ググ

俺はお前らの妖力を
吸収しながらより強大になる

所詮女など
脆き者

おーおー

ぐむら

ググ

ググ

強者の餌に過ぎぬ

おーおー

ふむまっ

ググ

無限の快楽を
味わいながら
我が糧となるがいい

ググ

ググ



僕に力があれば……



みんなごめん……

ほおっ♡

おっ♡
おっ♡



搜索しなくてもよろしいのですが
頭領様

御子息も四刃も依然行方不明
もう半年になります

構わぬ

し、しかし

今のままでは増え続ける
怪物たちにいずれ我らは押し負ける

起死回生のために
犠牲は必要なのだ

我らは正義の味方ではない
我らは防人
夷狄から人類を守る戦士だ

どのような手段でも
人類を守らねばならぬ

例えその力が
禁忌の力であろうとも

おっ♡

ほお♡

42り

はあああん!

あん♡

42り

イクイクウ!

42り

42り

ほお♡

あ...
はあん...

おま♡

42り

あああ...

42り





はあ♡

おまんこいいのおー!

おまん♡

もじもじもじもじおー!



おほっ

おほ♡

ひんぽひんぽお

おまん♡

おほ

おほ♡

おほ♡



みんな... どうしてこんな...

おまん♡

おほ♡

おまん♡

おほ♡

おほ♡

おまん♡

おほ♡



おまん♡

この卑しい雌犬に ザーメン飲ませてくだしやいい!

おまん♡

おほ♡

見るがいい優斗
戦士などと言っても
所詮奴らは女

ととと

俺はお前の秘めたる
欲望も知っているぞ

お前もこうなるの
を見たかったのだろう？

昔から悔しかったの
女に負ける自分が

お前の肉体が
あの女たちをメスに変えた

はぁん♡

見よ
今やすっかりお前の
雌奴隷と化しているぞ

おぐま♡

しゃーの♡

んほみ♡



お前が憧れていた女も
今やお前の肉棒の虜

ご主人さまあ
おちんぽくだしやあい…

おいひいのお…
おひんぽお…

蕩けきった顔よ
お前の性の猛りを感じるぞ

4270

42110

あはっ♡

はあん♡

おはっ♡

あっ♡

4270

4270

力が流れてくるのを
感じるだろう

お前があんな女を犯し
染め上げているのだ

4270

4270



くくく
まだわからぬか優斗



お前は一体
何者なんだ…!



おまへ♡
ふっきゃ♡

なま、まさか!

千年前、オレは死ぬ直前に一つの術を発動させた
その術は転生魂の術
肉体は滅びようとも魂に己の意識と記憶の
術式を残すという禁忌の術よ



アギト様……
よくぞお戻りを……

……出迎えご苦労



僕は優斗だよ……
父上……

僕とアギトは完全に融和し
今や神に近い存在となった

なんと強大な妖力！
並みの防人が千人集まろうと
到底敵わない！

クウ
クウ

オオオオ

神人防人の
誕生だ！

これで我ら防人の
勝利は確実じゃ！

ク
ク

ク
ク





やがて僕の子らは
みんな一騎当千の強者になろう



こいつらは
僕の子を宿した

さあ開戦の狼煙を
上げるぞ

夷狄狩りの開始だ！

応っ！





あ、あ、あ

は、放せ!

くっ...!
や、やめろお!

は、は、は

あ、あ、あ

びび

びび

びび

びび

びび

くくく
お前の乳房から妖力を吸い取ってやる
快楽に悶えるがいい!



おおっ♡
ムツク♡

ムツク

ムツク



ムツク♡
ムツク♡

ムツク

ムツク

妖力を母乳に変え
吸いだしていくのだ



触手から出る特殊な液体は
肉体の快楽神経を刺激し



さあ快楽を貪りながら
我が糧となれ

おいおい

おいおい

おいおい

アッ
アッ
アッ

なぜだアギト...

おいおい

なぜこんなことを...

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ



ん……

そんな弱いお前が

クワッ
クワッ

クワッ
クワッ

クワッ
クワッ

お前は昔から弱かった
だから強いオレに惹かれ恋をした

や、かめっ♡
おっ、おめっ♡

オレにすぎる子犬のようで
哀れで哀れで仕方なかった

んん

んん



千年間蓄えたその妖力
オレの力にしてやろう

だが喜べ
そんなお前がようやくオレの力に
なれるのだからな

お前はただひたすらオレに尽くし
オレの事だけ愛せばよいのだ
昔のようにな...

むふふ...♡

クッホ

クッホ

クッホ

クッホ

クッホ

おふふ♡

クッホ

おふふ...♡

クッホ

クッホ

おふふ♡

おふふ♡

クッホ

クッホ

半年後...

アイ

アギトお...♡
もっとおちんぽお...♡
おちんぽ頂戴い...♡



アイ

ははっ
すっかり雌らしく
なったではないか



まおっ♡

それでいい
お前ら雌は強き雄の
ためだけにあるのだ



あっ♡

触手ちゃん
キアッ♡♡

ア

ム

まおっ♡

ア



あっ♡

A

お前はこれからも大事に
飼ってやるとも
お気に入りのおペットとしてな